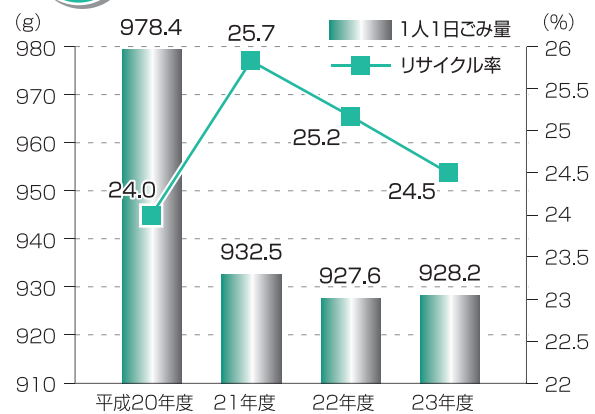


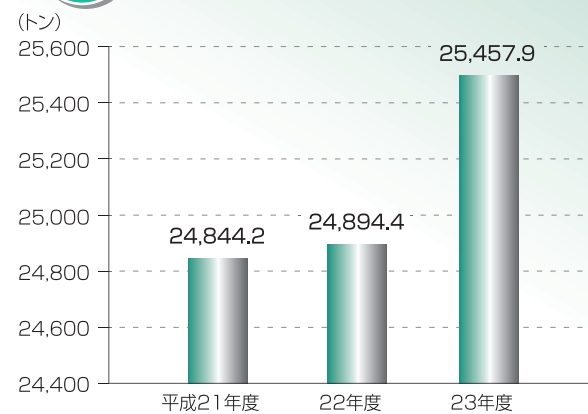
グラフ1 ■ 1人1日ごみ量*とリサイクル率



※1人1日ごみ量とは総ごみ量の1人1日当たりごみ排出量をいい、総ごみ量とは家庭系ごみ、事業系ごみ、集団回収の合計量をいいます。

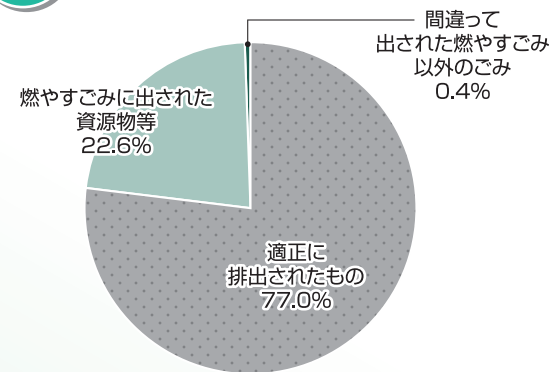
平成21年度の分別変更を機に、1人1日ごみ量は大きく減り、その後は横ばい傾向となっています。また、23年度のリサイクル率は22年度より0.7%低下しました(グラフ1)。一方、燃やすごみの量は22年度より563.5トン増えました(グラフ2)。

グラフ2 ■ 家庭系燃やすごみの量



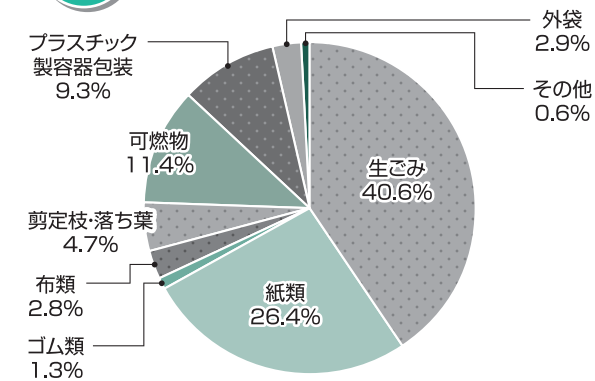
※持込みごみを除きます。

グラフ3 ■ 家庭系燃やすごみの適正排出割合



平成23年度に行った家庭系燃やすごみ組成分析調査結果による適正排出割合を調べたところ、燃やすごみとして出されたごみのうち、22.6%は資源物等としてリサイクルできるものが混ざっていました(グラフ3)。

グラフ4 ■ 燃やすごみの内訳



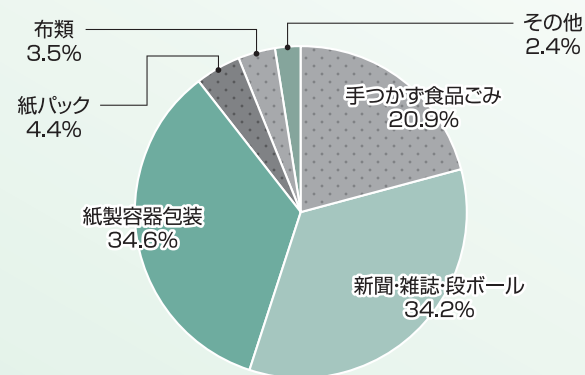
燃やすごみの内訳をしてみると、生ごみが40.6%で紙類が26.4%です。この2つで全体の67%を占めます(グラフ4)。



燃やすごみの中身

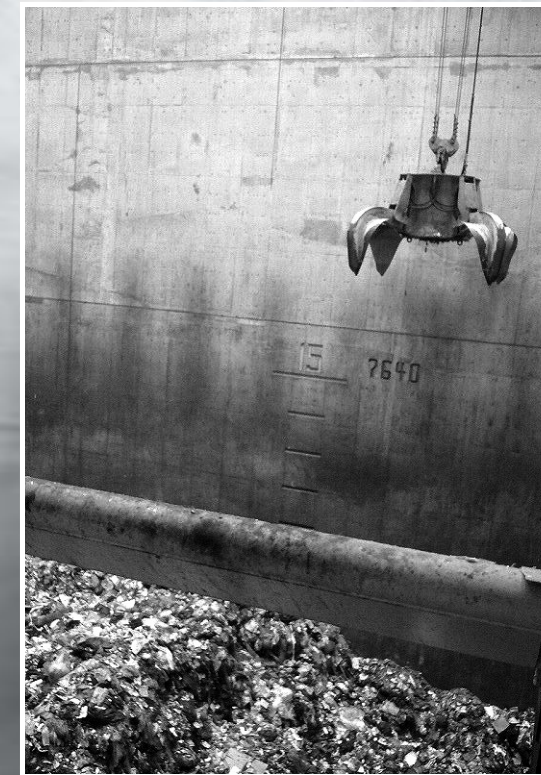
こんな風に燃やすごみの中にリサイクルできる紙を混ぜていませんか…。

グラフ5 ■ 家庭系燃やすごみに含まれる資源物等の内訳



燃やすごみの中に含まれる資源物等のうち、手つかず食品ごみ(未開封の食品)が20.9%、新聞、雑誌、紙箱等の紙類が合わせて73.2%含まれています(グラフ5)。

燃やすごみの量が増えています!!



分別区分が変わり、ごみの量も大きく減りました。しかし、近年は、燃やすごみの量が増えています。ごみの量が増えると、最終処分場がなくなってしまうことや、収集・焼却処理に伴い発生する二酸化炭素(CO₂)の増加が心配されます。

また、国崎クリーンセンターでの処理にかかる経費(負担金)は燃やすごみの量に応じて負担することになっており、燃やすごみの増加は負担金の増加につながります。